

1. 事業概要 (1)本事業の背景・趣旨、目的、事業の流れ

事業の背景

- ・ スポーツ庁は、障害の有無に関わらず、指導者がスポーツを実施する方の特徴を踏まえた多様な指導方法を習得することで、インクルーシブなスポーツ実施環境の整備の一助となることを目的に、「障害のある方へのスポーツ指導・関わり方入門 ハンドブック」(以下、「ハンドブック」という。)を作成した。
- ・ ハンドブックを通じて学ぶことのできる内容は、運動の苦手な方や子ども・高齢者への指導等に活用することができ、指導者の指導対象や範囲(年齢や運動レベル等)の拡大も期待される。そのため、効果的にハンドブックを活用するために、障害のある方へのスポーツ指導に関わり得る指導者等にとって参考となる好事例を集める必要がある。

事業の趣旨・目的

- ・ 本事業では、ハンドブックを、障害のある方へのスポーツ指導に関わり得る指導者等に対する研修等において、広く活用いただくことを目的として、ハンドブックを活用した研修等を事例集として取りまとめている。(※「スポーツ支援者の資質向上のための『障害のある方へのスポーツ指導・関わり方 入門ハンドブック』活用事例集 -指導スキル向上のための研修等の実践と工夫-」)
- ・ 本事例集を通じて、スポーツの多様な指導方法の習得、指導範囲の拡大が望まれる。

《事例集のポイント》

- ・ 本事例集では、「どのように研修を組み立てれば参加者に具体的な指導方法が伝わるのか」、「現場で役立つ指導のコツやポイントは何か」といった実践的な内容を受講者に伝えるための、研修会などにおけるハンドブックの活用の仕方や研修会の構成などの工夫が整理されている。
- ・ こうした工夫は、障害のある方への指導経験がない方でも必要な知識や配慮点を理解し、指導場面を具体的にイメージしやすくなることが期待される。
- ・ また、障害の有無にかかわらず、指導に携わる方々に新たな視点や指導のヒントを提供する機会になり、事例を通じて、ハンドブックの活用する方法を知ることができる。

事業の流れ

(1) 事例の選定

(2) ヒアリングおよび
アンケート実施

(3) (2)を踏まえた
事例集の作成

1. 事業概要 (2)作成した活用事例集について

・以下の団体にヒアリングを行い、実施した研修会などの概要な具体的な研修内容を取りまとめた。また、ハンドブックを活用した研修会を受講した受講生の声も含めて掲載した。



事例集表紙

■想定読者■

障害の有無に関わらず、スポーツを実施する方に指導・支援する以下の方に研修などを企画・運営・実践する方

(例)

- ・ 学校教員(特別支援学校・学級に限らず、小・中・高の体育指導にあたる教師など)
- ・ 学生(大学等における体育やスポーツの指導方法に係る講義、実技 等)
- ・ 地域のスポーツクラブ職員、スポーツイベントや大会等のボランティアスタッフ・スポーツ施設職員・医療関係者、福祉関係者

■ハンドブックを活用した研修実施のポイント■

ポイント1:ディスカッションのツールとして活用

ポイント2:パラスポーツ関連以外のスポーツ授業での活用

ポイント3:定期的な職員研修等で活用

ポイント4:座学・実技で複数回活用

■ヒアリング対象■

- ①岐阜県地域スポーツ課
- ②セントラルスポーツ株式会社
- ③公益財団法人横浜市スポーツ協会
- ④大阪府立障がい者交流促進センター(ファインプラザ大阪)
- ⑤東京都／公益社団法人東京都障害者スポーツ協会
- ⑥社会福祉法人大阪市障害者福祉・スポーツ協会
- ⑦茨城県教育委員会
- ⑧北九州市中学校保健体育科研究部会
- ⑨公益社団法人広島県パラスポーツ協会
- ⑩順天堂大学スポーツ健康科学部
- ⑪びわこ成蹊スポーツ大学
- ⑫日本福祉大学
- ⑬国際武道大学
- ⑭公益社団法人日本理学療法士協会
- ⑮順天堂大学大学院保健医療学研究科
- ⑯白蓮会館
- ⑰公益社団法人日本リハビリテーション医学会